

VISIONARY REPORT ビジョナリーレポート 2020



ビジョナリーレポート 2020
発行:2020年6月(年1回発行)
発行元:五十鈴グループIR委員会
企画・編集:株式会社アイ・コミュニケーションズ

五十鈴株式会社
<http://www.isz.co.jp/>

VISIONARY REPORT 2020

ビジョナリーレポート発行に寄せて

五十鈴は「ビジョナリーカンパニー」を目指しています。

ビジョナリーカンパニーとは、「揺ぎない理念を実践することで、時代を超えて常に組織として成長・進化していく企業体」であり、五十鈴流に言えば、「気分よく働け、業績がよく、自己成長できる会社」です。

私たちは、地球市民として、世界に貢献することを志し、世界中のあらゆるステークホルダーの皆さまとの協生・協栄を通じ、創発的な価値を生み出す「協創」のプロセスを育んでいきたいと考えています。

その一つとして、2010年度からスタートし、いよいよ2020年度ゴールを迎える五十鈴グループ長期経営目標「Will-Navi」の実現にむけて、グループ各社それぞれが実践してきた軌跡を「ビジョナリーレポート」として整理しています。

本年は、新型コロナウイルス感染症が世界中に拡大し、あらゆる経済活動や人々の生活に影響を与え、先行きへの不透明感が高まっております。私たち五十鈴グループは、この危機をステークホルダーの皆さまと乗り越え、さらに社会から必要とされる企業になるべく、より良い未来に向けて邁進してまいります。

※『ビジョナリーカンパニー～時代を超える生存の原則～』ジェームズ・C・コリンズ/ジェリー・ポラス(日経BP社)

CONTENTS

はじめに P1
Introduction

CEOメッセージ P3
CEO message

五十鈴株式会社 代表取締役社長 鈴木 貴士

10年VISIONのゴール、そして次なる
未来の“魁”へ(10年ビジョンと五十鈴の経営) P5
Isuzu's challenge to Ten-year vision
by all employees

● 未来社会への価値づくり

より良い社会づくりへの

“未来協創パートナー”となるために P7

● バリュースセンターとしての組織づくり

五十鈴流働き方の創造

～VCワークライフシナジー～ P11

2020バリュー協創進行形! P13
Co-creation of the value with stakeholders

概要 P15
Corporate profile & data

事業概要
財務データ

大きな変化の時代に、 “魁”となるべ

新たな生態系を築き、 く創造の時

代表取締役社長 鈴木 貴士

バリュー創造へのスピード感と 協創が拡大した2019年度

昨年 2019 年度は、2020 年度をゴールに据えた長期経営目標「Will-Navi」の最終コーナーに入り、「This is VC」を合言葉に、自他ともに認めるバリューセンター（VC）としての業態を築きあげ、「スマートイノベーションの推進」をダイナミックに実践していくことを確認しスタートしました。

各拠点では、多種多様なビジネスパートナーと新たな仮説を立て、スピード感ある取り組みを展開しました。特にスチールサービス(SS)部門は、広く社会的な課題やマーケット全体の Will を捉え、お客さまのみならず地方自治体などあらゆるコミュニティとの VC 活動へ領域が広がりました。AI、IoT などデジタル技術の活用も加速し、業界やマーケット全体など関わる組織の概念を広げ、新最適を生む DX（デジタルトランスフォーメーション）構想を展開しています。

ソリューション (SL) 部門はこれまでの鋼板流通への機能からあらゆる業界・業種にも適応できる機能を追求し、SS 部門と協働した VC サービスモデルの開発が加速しました。

ロジスティクス (LG) 部門は物流プロセスの全体最適化を促進すべく、新基幹システムの開発に着手するとともに、輸送業界における法改正を踏まえた新たな物流の在り方と働き方改革をお客さまとともに構築してまいりました。

しかし、業績数値においては、上期はこれら取り組みが功を奏し好調であったものの、下期は消費税増税の影響から失速し、さらに追い打ちをかけるように新型コロナウイルス感染拡大の影響も受け、当初の年初計画未達という結果に終わりました。SS 部門は、五十鈴関東・五十鈴中央において対面業界も厳しい経営環境下にありその影響を受けて期初計画を下回る結果となりました。特に、五十鈴関東においては今後の動向を踏まえて実施した設備投資も緊急事態に直面し、その効果を発揮できない状況となりました。

一方、近年のバリューセンター化への取り組みが影響し、この環境下でありながらも 4 月期黒字のサービスセンターもあり、VC 収益となる新たな付加価値ビジネスが、大きく下支えするという状況も生まれています。2020 年度の事業計画については、新型コロナウイルスの影響がさらに膨らむことが予想されます。まずは足元をしっかりと固め

ながら、その先を見据えた活動を怠ることなくグループ全体で一層気持を引き締め臨んでいるところです。

今こそ新たな生態系(エコシステム) を築き上げる時

長期経営目標「Will-Navi」の最終コーナーである 2019-2020 年度の経営方針は、今後起こるであろう大きな社会環境の変化を予測し、バリューセンターとしての生態系（エコシステム）を築きあげ、進化させていくことをゴールに据えました。そして 2020 年度は、次なる 10 年の長期ビジョンを描き、見据えていく時であるとし、「Will の実現…魁」を基本方針に掲げました。そのような折に、突如世界中に襲い掛かった新型コロナウイルスという疫病とそれによる世界恐慌のダブルパンチでした。このような事態に襲われることは到底予想できませんでした。

そこで、改めて 2019-2020 経営方針と本年度の基本方針概念図を確認しましたが、五十鈴グループが定性目標として掲げている「VC エコシステムの進化」については、社会全体そしてビジネス環境が大きく変わる今こそ真に必要なことであると確信しています。しかしその意味合いの前提が大きく変わっているという事実も認識しなければなりません。

今、世界中が、疫病への防御か、恐慌への経済立て直しか、どちらを取るのかと議論し混乱しています。しかしその両方を取らなければなりません。そして今回の事態で、確実にグローバル化は終焉し、「ポストグローバル化」に向かおうとしています。その時に、私たちは組織にある次の 2 つの性質を取り外すことができるか。それが次の進化へのキーワードであると思っています。

一つは「経路依存症」。パラダイム（思考の枠組み）に似ていて「こういうものである」と過去からのやり方・規範や伝統の通りにやることを良しとする性質です。もう一つは「認識共同体」であり、「私たちにとってはこれでいいのだ」とその共同体だけにしか通用しない認識があります。

私たち五十鈴グループには、プロセスを重視する独自の組織文化が存在します。五十鈴の基本である「エチケット・マナー」とその行動様式もあります。これらの本質を今一度問いながら、

2019年度	
基本方針	「スマートイノベーションの推進」
キャッチフレーズ	「ダイナミック」
実績	売上高 1,155 億円 販売重量 108 万 t 経常利益 24.3 億円 純利益 16.1 億円

2020年度	
基本方針	「Will の実現…魁」
キャッチフレーズ	「パフォーマンス・イノベーション」

五十鈴としての新常态を創り出せるか、新組織文化を築けるか、新たな組織づくりに挑む時であると思っています。

次の時代にむけた“魁”へ

創業者である故鈴木實会長から経営のバトンを引き継いで 28 年になります。社訓に象徴される創業者精神と 100 万トン体制という大きな事業基盤を継承し、私の代ではどのような変化にも強く適応しながら進化できる組織と人づくりを目指して、組織開発と組織変革の基盤を創ってまいりました。その結果として、現在の五十鈴グループがあります。

そして今、五十鈴グループはいよいよ「第三の創業」へと新たなステージへ移ろうとしています。昨年度後半から、次なる 10 年の「魁」となるべく 2030 年への新長期ビジョン策定プロジェクトが組成され、若い世代のメンバーを中心に推進されています。また、この 4 月より五十鈴とは異なる業界の経験を有した新たな若き人財を経営陣として迎え入れる運びとなりました。創業者が何よりも大切にしていた「社員の成長と喜びを重んじる」という五十鈴のアイデンティティーを継承し、この難局をともに乗り越え、ともに新たな創業を促進してくれることを期待しています。

かつてない世界規模の危機に襲われ、国・社会・企業・個人はこの難局に立ち向かいながら、その先の未来をどう描き、どう変わっていくのか、この戦いはしばらく続くかと覚悟しています。その覚悟をもって株主をはじめとするステークホルダーにとって「必要な存在」であり続けられるよう世の中に価値を提供していく所存です。

10年VISIONのゴール、 そして次なる未来の“魁”へ

長期ビジョンを全社員で推進する五十鈴の全員参画経営

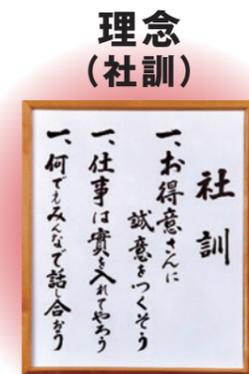
五十鈴グループでは、2010年に、長期経営目標「Will-Navi」を発表しました。これまでのコイルセンターやサービスセンターとしての鉄を中心としたビジネスに限定することなく、「バリュー（価値）」を起点にビジネス領域を拡大する「バリューセンター（VC）」への変貌を目指すものです。2~3年単位及び年度でグループと各社の戦略や方向性を明らかにしながら、全社員でこの長期ビジョンの実現に携わる全員参画経営を実践しています。

推進には複数の委員会からなる未来協創ステアリングコミッティやCSR推進体制がそのステアリング機能を果たすとともに、グループ各社・各サービスセンターでの組織変革活動（IOC活動）や人財価値創造活動（IVC活動）、さまざまなグループプロジェクトなどに全社員が携わる、全員参画でのWill-Navi推進に挑んでいます。

「社会的価値」に挑みはじめた2019年度、そして次の未来へ

2019年度はこの10年VISIONの最終コーナーに入り、本年2020年度はいよいよゴールの年となります。「世界に通用するグローバル・バリューセンター」を標榜する私たちは国連が定めるSDGs（持続可能な開発目標）の実現も見据え、社会全体の中で果たす役割を追求しています。同時に「未来協創企業」として、10年、20年先の未来社会を見据えた「魁（さきがけ）」となるべく意志を固め、新たな挑戦をはじめています。

このビジョナリーレポートでは、より良い社会づくりへの“未来協創パートナー”となるための五十鈴グループの価値（バリュー）づくりの実例（P7~10）をご紹介します。さらに、そのような価値づくりを日常化するために、新たな職場環境・働き方の創造などバリューセンターとしての組織づくり（P11~12）を掲載しています。



Since 2010年

長期経営目標
Will-Navi
START



2009-2011

コイルセンター（加工業）

2012-2014

サービスセンター

2015-2016

バリューセンター

2017-2018

2019-2020

Will-Navi
GOAL
2020年
世界に通用する
グローバル・バリューセンター



2019-2020
五十鈴ならではの社会的な価値づくりへ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



長期ビジョンを推進する五十鈴のマネジメントシステム

未来協創ステアリングコミッティ

- ブランド委員会 ■VCリソース委員会
- DS委員会 ■バリュー委員会

CSR推進体制

- 人財戦略委員会 ■コンプライアンス委員会
- リスクマネジメント委員会 ■ISMS委員会
- 予算委員会 ■株主事業戦略委員会 ■IR委員会

IOC

五十鈴組織変革活動

IVC

五十鈴人財価値創造活動

HRM

ヒューマン・リソース・マネジメント



より良い社会づくりへの “未来協創パートナー”となるために

地球にやさしい「循環型」社会の実現にむけて



大企業・中小企業を問わず、ビジネスに携わる私たちにとって、より良い地球環境を守り、望ましい経済活動を営んでいく上で、持続可能な方法で生産し、消費する生産・流通形態を築くこと、すなわち「つくる責任、つかう責任」を果たすことは重要な使命です。

五十鈴グループでは、あらゆる業種・業界のお客さまやビジネスパートナーとともに、生産・消費の3R（リデュース、リユース、リサイクル）を実現し、「つくる」から「つかう」を循環する新たなビジネス生態系づくりに取り組んでいます。



環境に配慮した「つくとつかわのサステイナブルなサイクル」を築いて

多くの製造業が「グリーン経営」を掲げ、生産活動で生じる排出物の削減とリサイクルを進め、廃棄物の排出量削減に努めています。しかし、複数の部材からなる製品の中にはどうしても再生不可能な部材・素材もあり、掲げているリサイクル使用目標値に到達できないという悩みを抱えています。

住宅や自動車などに使われる樹脂メーカーのお客さまは、天井内装の廃材において、熱を加えると有毒ガスが発生する素材であり、リサイクルが不可能でした。そこで五十鈴東海 安城 SC は、複数のビジネスパートナー（BP）のテクノロジーを活かし、「亜臨界テクノロジーによる再資源化」と「炭化技術を活用した固形燃料化」という2つのテクノロジーを掛け合わせたリサイクルスキームを構築し、五十鈴とBPとお客さまとのR&D協創がスタートしています。さらに、浜松 SC では、この亜臨界融合技術で生まれた再生樹脂をBtoC企業と商品化～販売するスキームを構築し、環境に配慮した「つくとつかわのサステイナブルなサイクル」を築きはじめています。

また、グリーン調達目標を掲げるお客さまは、リサイクルプラスチックの使用目標 10% 以上の到達を目指していました。その目標を実現するために五十鈴中央 富士 SC は、BP とリサイクルポリアミドを協創開発し、再生比率を向上できる供給スキームを提案し、現在お客さまとともに構築中です。

これからも、多くの企業の自主的で継続的な環境保全への意志や想いをともに実現していきます。

企業廃棄材の再資源化



企業間連合体のDXで「新最適」をつくりだす



デジタル技術を駆使し、一企業という枠を超え業界や社会全体のプロセスを大きく変革・創造する、すなわちDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進はこれからの企業にとって大きなテーマです。五十鈴グループは業界やビジネス領域での変革・創造の推進役となるべく、あらゆる関係企業や組織とのパートナーシップのもとDX構想を描き、協創を進めています。

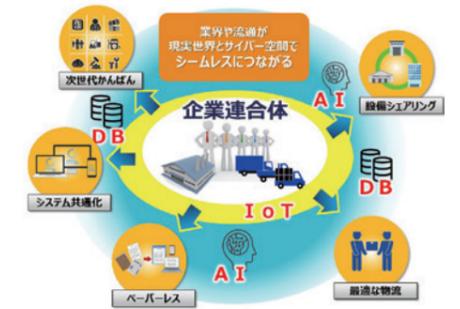


未来をともにつくる新基準の シェアリングがはじまった

自動車産業の大変革期にあり、東海・三河地区のトヨタマーケットでも過去と同じやり方では限界がきています。そこで、五十鈴単体でシステム化をするのではなく、他商社やコイルセンターの連合で新基準をつくり、それをシェアできるモノづくりプロセスを描き、企業間連合でのプロジェクトを構想しています。

受注システム・指定伝票・かんばんなどを統一化した次世代かんばんシステム構想は、システム共通化や現物かんばん・専用伝票の廃止など業界や流通全体がシームレスにつながりを持つことのできる新たなSCM創出を狙っています。

また、DXの推進は、さまざまなモノづくりを支援するファブレス事業においても広がっています。五十鈴中央とベル・インフォ・テックでは、Microsoft Dynamics365を活用し、ファブレス事業で協働するBPとのシステム連結や基幹システム連結を進め、さまざまなモノづくりに汎用可能な共通プラットフォーム開発の実証実験を重ねています。



地域とともに「豊かな街づくり」へ



国内のあらゆる地域で、ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメント（計画、整備、管理・運営等）が行われ、全体最適化が図られる持続可能な街づくり「スマートシティ構想」が展開されています。五十鈴グループの各サービスセンターではそれぞれの地域との共生・共栄を目指し、地方自治体や他企業と協働した「豊かな街づくり」の推進に挑みはじめています。

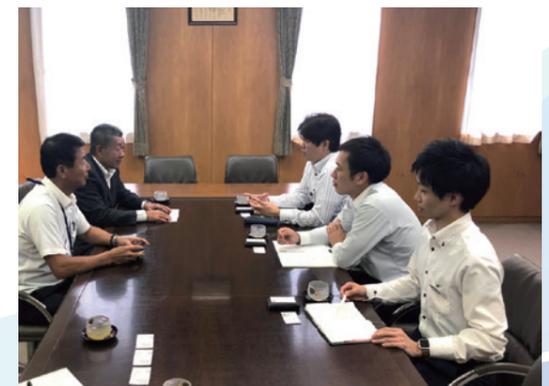


地域企業の技術・ノウハウを掛け合わせスマートシティの実現へ

各地方自治体が「スマートシティ構想」を打ち出し、実現に向けて取り組んでいますが、地域の中で必要とする技術・ノウハウがどこにあり、どのようにそれら技術を組み合わせれば最適な仕組みを築くことができるかがわからず、推進スピードがあがらないケースも生じています。

岐阜県のある地方自治体では、自然災害は深刻な社会問題であると捉え、地域に安全をもたらす防災設備の充実を進めていました。その情報を得て、五十鈴東海 岐阜 SC では、同地域で発生する廃棄物を利用し、かつ同地域の企業の保有する技術・ノウハウを活用した循環型での防災設備開発を提案しています。

その他地域でも、蓄電システムを活用した電力循環システムを提案するなど、それぞれの地域のもつ課題や問題を共有し、その地域の特性にあった最適なスキームを築く、さまざまな地域コミュニティ協創をこれからも展開していきます。





モノづくりにおける物流プロセスの「新最適」を追求して



新型コロナウイルスが経済活動に大きな影響を与える今、このような不測の状況でもサプライチェーンを維持する上で、ますます物流・情報流の最適化が急務となっています。その鍵となるのが、IoT・AIなどデジタル技術を活用したスマートロジスティクスにあることも紛れのない常識となってきています。

五十鈴グループでは、「ロジスティクスバリューの追求」をグループ全体の重要テーマに掲げ、研究開発・サービス開発を重ねています。昨今では多種多様なビジネスパートナーとの協創が加速し、あらゆる業界・業種にも必要とされる、ロジスティクスの「新最適」をつくりだしています。

ハードとソフトを融合した「スマートロジスティクス」が物流の新化を生む

あらゆる業種・業界で、材料や部品の在庫、物流、検収プロセスの最適化は永遠の課題となっています。しかし、さまざまな要因により“非効率”は解決せず、経済的ロスが生じています。

そこで着目したのが、「物流機器（パレット・かご車・ラック・シャーシなど）のデジタル化・IoT化」による物流プロセスの可視化です。それは同時に、機器自体の滞留や紛失の解決といった物流資材コストの低減のみならず、機器の稼働率向上を通じた物流プロセス全体の最適化につながっていきます。

この構想からシステム開発を手掛ける Hacobu 様と五十鈴関東の協働開発がスタートし、トラッキング装置を取り付けたパレットを自社工場からお客さままで流動させる実証実験を繰り返し、2020年4月「物流 Seek サービス～物流機器モニタリングツール～」が誕生しました。

全国に営業所を展開し、多様な貨物を扱う運送業者様では、保有する約3000台のトレーラーシャーシの在庫位置情報と稼働率を可視化し、特定のシャーシへの偏りや全体の稼働率の傾向分析とその最適化に向けた協働プロジェクトがスタートしています。

また、野菜の輸送で所有・管理する搬送用コンテナの稼働率が30%という現状や、物流導線上での滞留や紛失の多さに問題を抱えていた野菜加工会社様でも、物流 Seek サービスを活用した実態把握にその可能性を見いだしていただきました。このようにあらゆる業界・業種で物流 Seek の活用によって非効率への解決の糸口を見いだしています。

すでに開発・販売している「五十鈴スマートパレットシステム」と組み合わせることで独自の物流機器のIoT化を通じて、ハードとソフトの両面からのスマートロジスティクスの実現が可能になります。

安全・安心な輸送環境づくりのトータルパッケージへ

多くの輸送企業では安全対策を講じていますが、労働災害の発現場所として、作業中の生産ライン内での荷下ろしや積み込み・積み下ろしなどで多くの事故が生じています。五十鈴関東 太田 SC と輸送部門であるワーレックス、そしてBPで安全商材を協働開発し、積み込みからお客さままでの荷下ろし時の転落防止を現場でトライ＆エラーを繰り返し、使い勝手を反映させたオリジナルの安全商材を複数開発しました。

また、重量物を扱う輸送企業では安全に対するニーズは大きいものの安全商材とともに教育スキームが少ないという実情がありました。それを受けアイ・ティー・シーが加わり、VR（バーチャルリアリティ：仮想現実）を用いた危険体感教育ツールを開発しました。これにより、教育にかかる時間や手間を最小にし、教育効果は最大化するという新たな学習環境を提供しています。

今後は、VRによる危険体感教育から安全の動画マニュアル、WEBによる習得チェックまでのトータルパッケージとして実務教育のスマート化を図りながら輸送業界の新たな教育プロセスを確立していきます。



転落を防止する安全商材



安全VR教育 全5コンテンツ

シート掛け作業の事故

荷台からの転落

挟まれ事故

踏み外し転倒事故

荷台上での転倒

生産現場の自立型マネジメントを高める「働き方改革」へ



国内の「働き方改革」は、以前までの長時間労働の是正が中心であったものから、目指すべき生産性の向上を図る仕事環境にシフトし、本来なすべき仕事に集中し、社員一人ひとりのエンゲージメントやモチベーション、働く喜びを高める次なるフェーズに入っています。五十鈴グループの「セルフマイクロマネジメント」もまた、次なる進化・拡充が現場主体で行われています。



独自ノウハウとデジタルとを融合したセルフマイクロマネジメントへ

五十鈴グループでは、より生産的・創造的な職場環境を目指し、日常の中で全員参画でのマネジメントを築く、五十鈴独自の「セルフマイクロマネジメント」を実践し、そのシステムやプログラムをお客さまの状況にあわせて適応し、ご提供しています。

工場において第一に優先される安全管理についても、過去の問題や解決ノウハウを活かし、対応型でなく予防型での実践が現場リーダーや社員の自主性・主体性を発揮し行える体制をICTを活用し構築しています。

セルフマイクロマネジメントの生みの親である五十鈴東海 浜松 SC は、「安全管理の可視化」という着想から、タブレットを活用した安全パトロールからの危険個所情報の蓄積～共有を図るセルフ安全管理システム「I-SMO」を開発しました。さらに、アイ・ティー・シーと協働し、安全管理に加え、品質管理・設備管理など工場での現場改善をサポートする、I-SMOを発展させた「G-mms/ジームス」(現場マネジメントサポートシステム)を開発中です。これにより多くのモノづくり企業の現場における改善活動のスマート化を促進していきます。



物流 Seek サービス



スマートパレット



トレーラーシャーシ

スマートロジスティクス実現へ

野菜搬送用コンテナ

五十鈴流働き方の創造 ～さらなるVC(バリューセンター)組織体へ～

効率から創造へ VCファクトリー

工場設備のVC化への投資

2019年度はVCファクトリー構想のもと、工場設備の自動化やR&D等の投資が加速しました。小山SCでは厚中板や超ハイテン化対応を図る大型レベラーとスリッター投資。また岐阜SCでは製品ヤードを拡張し、ライン停止やトラック待機時間の削減につなげると共に、新ビジネスに向けた取り組みも始めています。さらに、ITCでは業界では不可能とされた「自動ロス取り装置」の開発を進め、実証実験を重ね、ようやくロスを掴む仕組みを考案し、現在特許出願中です。



小山SCの大型レベラー



岐阜SCの製品ヤード拡張

業務プロセスの デジタルシフトへ

VCファクトリーの促進には業務プロセスのスマート化も欠かせません。各SCでRPAの活用も進み、250以上の業務の自動化で900時間/月がデジタルシフトで削減しました。また、五十鈴関東では、「デジタルワークフォース」が中心となり3SC間の最適・高収益化を狙った構造変革が進んでおり、五十鈴中央では、「セントラルオペレーション構想」のもと、既存業務の効率化からBPとの連結を図るVC業務プロセスの創造が加速しています。



多様なビジネスパートナー (BP)とのアジャイル協創

新たなBPから起業プロセスを学ぶ

VCでの開発・協創プロセスをさらに進化させるために、私たちのパラダイム(着想、仕事観、時間軸等)やラーニングを大きく転換する必要があります。そこで、短期での市場開拓を狙うスタートアップ企業や社会貢献やイノベーションを目指すベンチャー企業など、これまでとは異なる多種多様なBPとの協創が広がっています。

ベンチャー企業やスタートアップ企業との協創を通じて、私たちのVC化プロセスはアジャイル(俊敏)型かつPoC(実証実験)型のR&Dや事業化プロセスに変わり、同時にリアルな起業家育成機会にも繋がっています。



「VC人財化」へのプロセスと仕組み

自由で創造的なVCの新たな働き方へ

VCとしての人材育成・成長プロセスも次なるステージに入っています。五十鈴関東では、社員の強みや特徴をふまえて工場メンバーが営業や業務のキャリアを掛け合わせるなど人材価値を拡大しています。さらに遊び心と創造性でバリューが生まれやすい職場環境づくりも始まっています。五十鈴中央の「働Like」は一人ひとりが多様なコミュニティを創造する取り組みであり、五十鈴東海では活動テーマでメンバーが交差するリアル教育の場「アジャイルミーティング」、社員の趣味・特技の「働き方MAP」から将来を見たテーマ企画を進めるなど、VCとしての新たな働き方を創造しています。



社内報 [in] ではみんなの夢を掲載

2020バリュー協創進行形！

～私たち五十鈴グループと未来の価値を共に創りませんか？～

2020年度は新型コロナウイルスの影響拡大が予想されますが、そのような危機も変革へのチャンスと捉え、明るい未来に向けてあらゆるステークホルダーやビジネスパートナーとの協創がはじまっています。

ZEH「おうちをつくらう」グループプロジェクト始動！

循環型社会を目指し、サステナブルなモノづくりやビジネスを開発している五十鈴では、現在、独自の技術とシステムによる省エネ住宅・施設の開発でZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)を実現する「おうちをつくらうプロジェクト」がスタートしています。太陽光発電の活用や廃材・リサイクル樹脂の活用、防犯・防災機器やサービスを標準装備など、独自の機能を備えたスマートハウスを構想しています。



重量物輸送の固縛の「定量・標準化」にむけた安全商材を開発中

重量物輸送では荷台からドライバーが転落する事故や走行中の固縛の緩みによる荷落下事故が生じています。そこで、五十鈴関東はBPと協働し荷の積み込み作業時に使用するレバーブロックでの固縛方法を定量・標準化する安全商材「誰でもレバーブロック君(仮称)」を企画しました。今後、ワーレックスでの実証実験も行いながら商品化を進めていきます。



「新物流変革システム」完成に向けた最終コーナーへ！

ベル・インフォテックで開発中の新物流変革システム「AIR」はいよいよテスト検証段階に入っています。

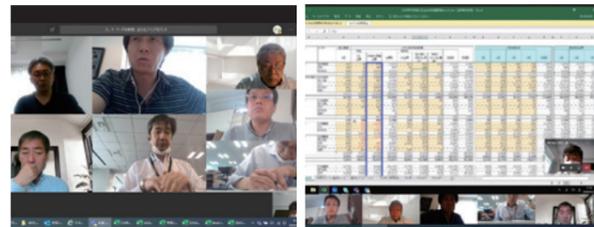
AI技術の活用や鋼板流通特有の配送アルゴリズムを組みこんだ「新自動配送システム」の他に、スマホアプリ・Google連携による「乗務管理システム」などの機能を盛り込んでおります。

また、基幹システムのデータと連携させることで、製造から流通までのSCM全体のデータを一元管理していきます。



テレワーク型業務受託体制を築き、DXのベースづくり加速

五十鈴ビジネスサポートでは、緊急事態宣言の発令を受け、株主メタルワン様と共に商社業務受託のインフラ環境の整備を東京・名古屋両オフィスに進め、同時並行的にテレワークでのオペレーション体制を築いています。この機会を変革のチャンスと捉え、将来に向けた新しい仕事の仕方(業務受託・VC営業)、マネジメントの在り方を検討し、今後加速する企業間でのDXへのベースを築きます。



次なる10年ビジョン策定プロジェクト(2030年長期経営目標)始動！

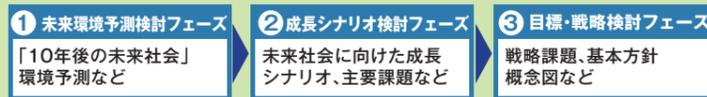
今年度2020年度は長期経営目標「Will-Navi」のゴールの年ですが、次なる10年ビジョンを描く長期経営目標策定プロジェクトが2019年11月から始動しています。

プロジェクト名は「I-Society X(通称:ISX)」,政府が提唱する未来社会のコンセプトSociety 5.0を参考に、五十鈴(I)として未来社会に働きかけるビジョンをつくり、「X」は無数の可能性や未来や未知を表現しています。

次の世代を担う若い社員も加えた9名のプロジェクトメンバーは、毎週のように議論を重ね、「未来社会にむけた成長シナリオ」などを描いています。

今秋までには、プロジェクトとしての方向性を経営に答申し、2021年度からはこの長期ビジョンを新たな羅針盤として次への「魁」となるべくグループ全社員でスタートしていく予定です。

ISXプロジェクトプロセス



● 事業概要

スチールサービス部門

鋼板流通マーケットの中で、加工・販売にとどまることなく、最適鋼板流通サービスを追求しています。基幹システム「ATOM」を中心に、母材調達～発注～加工～配送などのプロセスのオートメーション化・IT化を推進しながら、お客さまの購買戦略・業務変革に貢献することを目指しています。



五十鈴関東 (小山 SC・太田 SC・高崎 SC)
五十鈴中央 (大和 SC・青梅 SC・富士 SC)
五十鈴東海 (安城 SC・岐阜 SC・浜松 SC)

ロジスティクス部門

北は仙台から西は北九州まで26営業所にわたるネットワークと、鉄鋼、自動車流通における物流ノウハウをベースに、ロジスティクスの観点から物流会社・荷主企業と共に最適な事業環境を構築します。



ワーレックス、五十鈴倉庫、五十鈴オート整備工場

ソリューション部門

スチールサービスで培ったノウハウをベースに「流通」「財務・法務」「IT・業務」「技術」「組織開発・変革、人財開発」の5つの領域でお客さまの経営進化に貢献することを目指しています。鋼板流通のみならず、あらゆる業界・お客さまにも適応可能な、経営ソリューション & コンサルテーションサービスを展開しています。



五十鈴ビジネスサポート(流通)、五十鈴マネジメントサービス(財務・法務)、ベル・インフォ・テック(IT・業務)、アイ・ティー・シー(技術)、アイ・コミュニケーションズ(組織開発・変革、人財開発)

ライフサービス部門

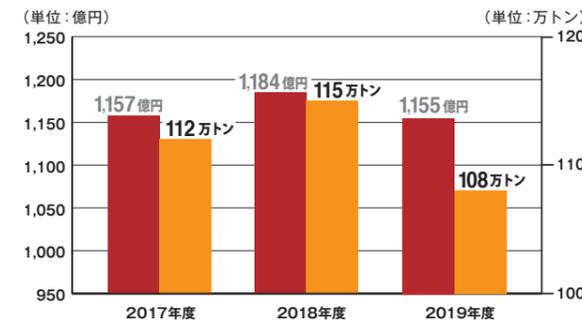
お客さまの大切な資産である土地建物に対して各種ソリューションを提供し、お客さまの期待を超える価値の創造により、現在から将来にわたる建物の可能性を見出します。



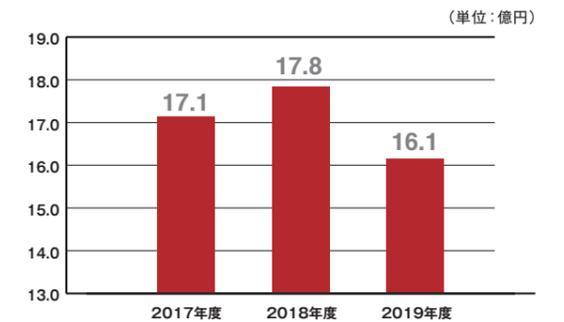
五十鈴建設

● 財務データ

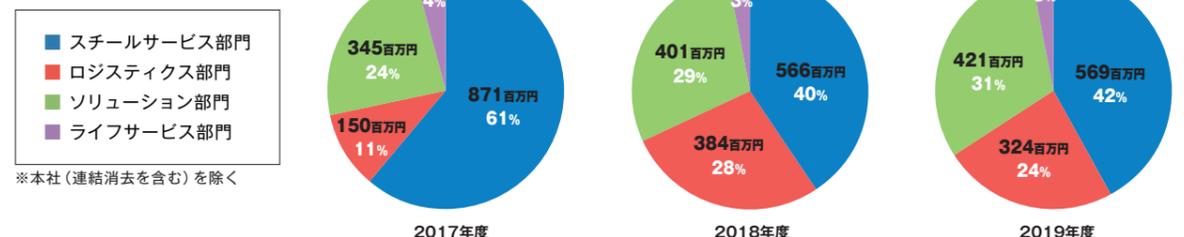
● グループ連結売上高／鋼板販売量



● グループ連結純利益



● 利益構成(部門別)



※本社(連結消去を含む)を除く